

# 「足利市の教育目標」見直しについて

足利市教育委員会生涯学習課 安 田 浩 一

## 1 はじめに

本市は、昭和51年に市内各界の代表者100名によって組織する足利市教育目標設定委員会を設置し、市民参加による、生涯教育の立場に立った新しい「足利市の教育目標」の設定にとりかかりました。設定に要した5か年の間に、49回に及ぶ会議、市民12,000人を対象とした意識調査、46団体、5,000人を集めての中間発表会等を開催するなど、正に市民参加により、市民の教育に対する願いの結集として、昭和56年1月に「足利市の教育目標」が設定となりました。

「足利市の教育目標」は、乳幼児期から児童期・青年期・壮年期・高齢期の各発達段階に即した人生各期にわたる70の目標と、その具現のための具体策、及び教育機能連関（目標達成の場とのかかわり）、さらに、この中から市民と行政が一体となって、早急に取り組むべき課題として、10の重点教育目標を定め、さまざまな主体がそれぞれの取り組みを考える際に参考とすべき『教育的基礎資料』として位置づけられています。

## 2 教育目標具現の経過

「足利市の教育目標」が設定されて以来、教育目標の具現に際して、5年毎の周期に分けて取り組んできました。昭和56年度～60年度の最初の5年を第1次具現化段階、次の昭和61年度～平成2年度の5年を第2次具現化段階、平成3年度～平成7年度が第3次具現化段階と位置づけて、その具現に努めてまいりました。

第1次具現化段階、昭和56年度～60年度の最初の5年間では、市民の皆さんに「足利市の教育目標」を理解していただくことに努め、「教育目標パンフレット」の全戸配布、「教育目標説明会」の開催、教育目標標語の募集と優秀作品ポスターの作成、16映画の作成、市職員研修の中に教育目標に関する研修を取り入れ、さらには、行政各課の教育目標関連実施事業の調査などを行いました。また、教育目標の広報紙「教育目標だより」を作成し、全戸配布を行いました。これは現在も継続しており、毎年2号ずつのペースで発行しています。

そしてまた、昭和56年の答申の中で「必要な時期に評価しながら、検討改善を願いたい。」とする具申がなされました。それに基づき、5年毎に具現状況評価を実施しています。評価は1万人に及ぶアンケート調査を実施し、市民の実践状況並びに意識とその変化の把握を行っています。その調査結果は、分析と解説を加え、昭和60年度に第1次の足利市教育目標具現状況評価報告書として刊行しました。この具現状況評価は次の第2次具現化段階、第3次具現化段階でも実施し、平成2年度、平成7年度にそれぞれ第2次、第3次の足利市教育目標具現状況評価報告書として刊行しております。

この5年毎に実施し、刊行する教育目標の具現状況評価並びに同報告書は、どのように教育目標が市民の間に浸透し、実践がなされているかということの把握だけにとどまらず、次の段階で何をなすべきか、その課題の抽出も大きな任務となっております。

次の昭和61年度～平成2年度の第2次具現化段階の5年間は、教育目標の必要性に気づき、活動を展開していく年と位置づけました。

第1次具現化段階と同様に、啓発のための資料の発行や、教育目標広報映画を用いての学習会などを継続する

ほか、市民から公募した「教育目標推進、生活実践の記録」という冊子を刊行しました。

続く、平成3年度～平成7年度の第3次具現化段階は、「足利市の教育目標」が設定され、具現化に取り組んで10年が経過し、社会は、生涯学習体系への移行という大きな転機を迎えました。臨時教育審議会の答申に合わせて、文部省をはじめ全国各地で、生涯学習推進のための体制づくりが活発となりました。本市では、第2次具現状況評価の結果に基づき、教育目標の具現、生涯学習の推進という総合的な推進を図るための連絡・調整を担当するセクションを設置して、生涯学習の基盤整備を任務といたしました。

新しい組織の中での第3次具現化段階は、市民の実践活動を点から線へ、さらに線から面へ拡大する年と位置づけました。そして、教育目標の具現、生涯学習の推進などの取り組みに市民と一体となった推進体制の整備を行い、学習情報の提供の充実、指導体制の整備・充実、奨励事業、調査・研究を行ってきました。

ところで、市では、昭和60年に第4次振興計画を策定し、まちづくりの基盤整備を進めてきました。しかし、その後の社会経済情勢の急激な変化に伴い、市民の生活意識や価値観の多様化、高度化が進み、本市のまちづくりも21世紀への飛躍に向けて大きな転換期を迎えようとしています。こうした中において、時代の動向と本市の現状を踏まえ、今後の行財政運営の指針となる「ニュー足利創造プラン」(第5次振興計画)を策定し、新しいまちづくりをめざすことになりました。

一方、設定から15年を経過した「足利市の教育目標」も、平成6～7年度に第3次具現状況評価を終えたところで、社会情勢や教育環境の変化を考慮し、内容の見直しについて検討する必要が生じてきました。

### 3 見直しの視点・経過

こうした状況から、平成8年度に見直し方針を策定し、方針に基づき見直し作業に着手しました。

見直しは、設定当時の理念、考え方は21世紀社会にも十分対応できることから、文字や表現において変更が必要なものや社会情勢の変化に対応する内容であるかどうかについて視点を検討しました。

この見直し作業は、まず行政組織である生涯学習推進担当者会議(教育目標に関係する行政各課の代表で構成)において、たたき台を作成しました。その後、教育目標を実践している民間団体の代表で構成されている生涯学習推進委員会において6名の方にお話し、行政からは教育委員会生涯学習課長を含めた7名により、見直しにかかる検討会議を設置し、数回の会議の中で、たたき台を検討していきました。そして検討されたものは見直し案として、逐次生涯学習推進委員会に提案し、委員全員で協議を重ねてきました。その結果平成9年7月に最終案がまとめ終わりました。

この見直し作業には、教育目標設定当時からの指導者であります東京家政学院大学長 河野重男先生にも御指導をいただき、この見直しについて大所高所から御助言をいただけてきました。

こうして出来上がった最終案は生涯学習推進本部や教育委員会などへ報告しその後内容を一新した冊子としてまとめることになっています。

今回の見直しでは、特に教育機能連関において、生涯学習社会の実現に向け、家庭・学校・地域の役割分担とその連携を重視し、学校中心の表現から、主に家庭・地域を重視する方向を明確にしたところです。折しも、平成8年7月に中央教育審議会第1次答申が出されました。この答申の中でも「生きる力」をはぐくむ視点として、家庭や地域の教育力の充実に重視しております。

また、情報化や国際化に関する目標では、現実に即した内容にしたり、高齢期では高齢者の社会参加の促進という点から見直ししています。

#### 4 見直し内容

修正された主な教育目標は次表のとおりです。

アンダーラインが見直した箇所です。

No.	教目 番号	達成時期	教 育 目 標	
			旧	新
1	1	児童期～高齢期	郷土の自然や文化に親しみ、その保護・発展に努める。	郷土の自然や文化に親しみ、その保護・ <u>振興</u> 発展に努める。
2	28	青年期	同和問題を正しく理解し、不合理な差別や偏見のない民主的な人間関係をつくることに努める。	同和問題を <u>はじめ</u> 、 <u>人権問題</u> を正しく理解し、不合理な差別や偏見のない民主的な人間関係をつくることに努める。
3	29	壮年期～高齢期	同和問題を正しく理解し、不合理な差別や偏見のない社会の実現に努める。	同和問題を <u>はじめ</u> 、 <u>人権問題</u> を正しく <u>認識</u> し、不合理な差別や偏見のない社会の実現に努める。
4	34	児童期	男女の特性や家族の役割を理解し、よりよい家庭を築く生活態度を身につける。	男女が <u>協力</u> して、よりよい家庭を築く生活態度を身につける。
5	35	青年期	男女の特性を理解し、清純で明朗な交際の仕方を身につける。	男女が互いの <u>人格</u> を認め合い、 <u>望ましい</u> 交際の仕方を身につける。
6	39	児童期～青年期	家庭で行う行事に積極的に参加する。	家庭や <u>地域</u> で行う行事に積極的に参加する。
7	62	児童期～青年期	自由時間を有効に過ごす。	<u>余暇</u> を有効に過ごす。
8	63	壮年期～高齢期	進んで計画的に自由時間を活用する。	進んで計画的に <u>余暇</u> を活用する。
9	68	壮年期	わが国に対する愛情を深めるとともに、世界的視野に立って広く考えることができる。	<u>日本</u> に対する愛情を深めるとともに、世界的視野に立って広く考えることができる。

また、教育目標の達成目標、具体策などは次のように見直ししました。

教育目標番号1，児童期を例にあげます。

アンダーラインが見直した箇所で、「新」は新たに追加した内容です。二重線は削除したところです。また達成目標の中には、新たに付け加えられたものは、N（New）で表しました。

郷土の自然や文化に親しみ、その保護・振興発展に努める。

(1) 目標達成の時期 児 童 期

(2) 達成目標

タイプ	達 成 目 標
D	1 努めて自然に接し、それを大切にすることができる。
B	2 郷土の歴史について、関心をもつことができる。
B	3 郷土の伝統的行事に関心をもち、参加することができる。
B	4 郷土の文化財を大切にすることができる。
D	5 高齢者とのふれあいを通して、豊かな体験に学び、これを生かすことができる。

(3) 具 体 策

- 郷土足利の自然や文化についてポスター、作文などで啓発
- 地域の社会的行事の開催と家族ぐるみでの参加
- 文化財めぐりの実施と参加（足利学校の見学など）
- 自然公園や文化財周辺などの美化活動への参加
- 夏期キャンプにおける教育キャンプ場の開設と活用
- 野外活動施設の整備と活用
- 郷土の自然や歴史、文化についての郷土学習の充実
- ふる里いろはかるたなどの活用
- 新 環境の美化、保護についての学習の充実

(4) 目標達成の場とのかかわり（教育機能連関）

- 地域では、郷土の自然や文化にふれる機会を多くし、理解を深める。
- 家庭では、郷土の自然や文化に家族ぐるみで親しむ機会をもつとともに、地域社会の諸行事に興味・関心をもち、進んで参加する。
- 学校では、体験的な活動を含めた学習を取り入れて、地域の自然や文化の理解に努める。
  
- ◎ 地域を中核として、家庭、学校との連携を図りながら、自然や文化の保護と振興発展に努める。

## 5 今後の具現について

見直しは、社会情勢の変化に対応して、文字や表現を修正しただけにとどめたわけですが、設定から15年以上が経過しているため、ここで原点に戻り、見直しされた教育目標を市民の皆さんに改めて理解していただく必要があります。

そのためには、毎年2回全戸配布で発行している「教育目標だより」などをおして広報をしていきます。また教育目標実践団体などに呼びかけて説明会を開催したいと考えております。

冒頭で述べましたとおり「足利市の教育目標」はさまざまな主体がそれぞれに取り組みを考える際に参考とすべき『教育的基礎資料』として考えられております。この目標を真に生かすためには市民一人ひとりがその意義を考え、自らの目標として受けとめて、各個人、家庭、学校、地域、職場、行政などがそれぞれの目標を考えて、連携を図りながら実践していく必要があります。

21世紀社会が近づくとつれ、今以上に社会情勢の変化が予想されます。そこで、今後さらに「足利市の教育目標」の具現を目指し、市民と行政が一体となり、それぞれの立場で自らが主体者となって実践し、「足利学校のある足利」にふさわしい生涯学習社会の実現に努めていかなければならないと考えます。